

平成24年度入学者のための

筑波大学大学院博士課程
人間総合科学研究科学生募集要項

医学を履修する課程（一般入学試験 2月期）

医学を履修する課程（昼夜開講制 2月期）

平成23年11月
筑波大学

募 集 人 員

【2月期入学試験】

医学を履修する課程（一般入学試験・昼夜開講制）

専 攻	募集人員	備 考
生命システム医学	若干名	連携大学院、外国人留学生、 昼夜開講制の募集を含む
疾患制御医学	若干名	連携大学院、外国人留学生、 昼夜開講制の募集を含む

（注）昼夜開講制の募集については、後半に募集要項を掲載しています。

【2月期】

一 般 入 学 試 験

一般入学試験

1. 出願資格

人間総合科学研究科（医学を履修する課程）に出願できる者は、次の各号のいずれかに該当する者です。

- (1) 大学（医学、歯学又は修業年限6年の獣医学若しくは薬学を履修する課程に限る。）を卒業した者及び平成24年(2012年)3月卒業見込みの者
- (2) 外国において、学校教育における18年の課程を修了した者及び平成24年(2012年)3月修了見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者及び平成24年(2012年)3月修了見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成24年(2012年)3月までに修了見込みの者
- (5) 文部科学大臣の指定した者（昭和30年文部省告示第39号（注1）及び（注2）参照）
- (6) 本学の大学院において行う個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したもの及び平成24年(2012年)3月までに24歳に達するもの（注2）及び（注3）参照）
- (7) 平成24年(2012年)3月末日で大学（医学、歯学又は獣医学又は修業年限6年の薬学を履修する課程に限る。）に4年以上在学した者であって、本学の大学院が、本学の大学院の定める所定の単位を優秀な成績で修得したと認めたもの（注2）参照）
- (8) 平成24年(2012年)3月末日で外国において学校教育における16年の課程（医学、歯学、獣医学又は薬学を履修する課程を含むものに限る。以下同じ。）を修了し、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了し、又は我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者であって、本学の大学院が、本学の大学院の定める所定の単位を優秀な成績で修得したと認めたもの（注2）参照）

（注1）文部科学大臣の指定した者とは、次の各号のいずれかに該当する者です。

- ① 旧大学令（大正7年勅令第388号）による大学の医学又は歯学の学部において医学又は歯学を履修し、これらの学部を卒業した者
- ② 防衛庁設置法（昭和29年法律第164号）による防衛医科大学校を卒業した者
- ③ 修士課程又は専門職大学院の課程を修了した者及び修士の学位の授与を受けることのできる者並びに前期及び後期の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者（学位規則の一部を改正する省令（昭和49年文部省令第29号）による改正前の学位規則（昭和28年文部省令第9号）第6条第1号に該当する者を含む。）で本学大学院において、大学の医学、歯学又は修業年限6年の獣医学若しくは薬学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- ④ 大学（医学、歯学又は修業年限6年の獣医学若しくは薬学を履修する課程を除く。）を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本学大学院において、当該研究の成果等により、大学の医学、歯学又は修業年限6年の獣医学若しくは薬学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- ⑤ 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本学大学院において、当該研究の成果等により、大学の医学、歯学又は修業年限6年の獣医学若しくは薬学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

（注2）出願資格(5)-(注1)-④、⑤及び出願資格(6)～(8)で出願しようとする者については、出願資格認定審査を行いますので、あらかじめ教育推進部教育推進課（11. 問い合わせ先）へ申し出て次の書類を平成23年(2011年)12月15日（木）までに教育推進部教育推進課あて提出してください。

なお、出願書類は出願資格認定審査が終了するまでその受理を保留します。

- ① 出願資格(5)-(注1)-④、⑤及び出願資格(6)～(8)で出願しようとする者
 - (ア) 出願者調書…………… 指定様式
 - (イ) 通常の出願書類（但し、検定料は出願資格認定審査結果が出るまでは払込まないでください。）
 - (ウ) その他人間総合科学研究科（医学を履修する課程）が必要と認める書類
 - ② 出願資格(6)で出願しようとする者のうち原則として、外国人出願者で、大学教育修了までの学校教育の課程が18年に満たない国において大学教育を修了した者で、次の(a)に該当し、かつ、本学大学院において、(1)の大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
 - (a) 大学教育修了後、国内若しくは国外の大学又は大学共同利用機関等これに準ずる研究機関において研究生、研究員等として相当期間（おおむね1年以上とする。）研究に従事した者及び平成24年(2012年)3月までに従事することとなる見込みの者
- (ア) 通常の出願書類（但し、検定料は出願資格認定審査結果が出るまでは払込まないでください。）

（注3）出願資格(6)に該当する者とは、短大・高専・専修学校・各種学校の卒業者、外国大学日本校、外国人学校

その他の教育施設の修了者（見込みを含む。）で、個人の能力の個別審査により、本学大学院において、(1)の大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者等です。

出願資格について疑問がある場合は、あらかじめ教育推進部教育推進課〔TEL029(853)2230・2231〕に照会してください。

※ 障害のある者で、受験の際に特別な配慮を必要とする者は、平成23年(2011年)12月15日(木)までに教育推進部教育推進課へ申し出てください。

2. 出願書類等

出願書類により取得した個人情報及び試験成績の個人情報については、入学者選抜に関する業務に利用します。また、入学手続完了者にあつては授業料免除申請者及び日本学生支援機構奨学金申請者に限っては選考の際の審査資料の一部に利用します。

書 類 等	提 出 該 当 者	摘 要
1 入 学 願 書	全 員	所要事項を記入（入学願書等記入上の注意を参照）し提出してください。
2 履 歴 書	全 員 (外国人出願者を除く。)	入学願書裏面に所要事項を記入してください。
3 外国人出願者用履歴書	外国人出願者全員	本学所定の用紙に所要事項を記入し、提出してください。
4 職 歴 調 書	職歴のある者全員	本学所定の用紙に所要事項を記入し、提出してください。
5 受験票・写真票	全 員	所要事項を記入し、写真（出願前3か月以内に撮影した無帽上半身正面のもので、大きさは縦4cm×横3cm、同一の写真を使用）をはって提出してください。 上記要件に合わない場合には、受理しません。
6 机上受験票	全 員	所要事項を記入し、提出してください。
7 検 定 料 (30,000円)	全 員 ただし、次に該当する者は不要。 国費外国人留学生、及び平成24年3月に本学大学院修士課程又は博士前期課程を修了し、引き続き本学人間総合科学研究科の医学を履修する課程（生命システム医学専攻、疾患制御医学専攻）に進学する者。	所定の金融機関からの払込みとなります。外国在住の者は、クレジットカード(VISA、MasterCard、JCB、AMERICAN EXPRESS)により払込むことができます。詳細は、本学ホームページをご覧ください。 http://www.tsukuba.ac.jp/admission/graduate/information.html ① 払込期間 平成23年(2011年)12月1日(木)から、出願期間に間に合うよう払込みください。 ② 払込場所 ア 郵便局、銀行、信用金庫、農協(JA)などの金融機関受付窓口 (ATM(現金自動預け払い機)から払込みすることはできません。必ず金融機関の受付窓口から払い込んでください。) イ コンビニエンスストア(ローソン、セブン-イレブン、ファミリーマート、サークルK、サンクスに限ります。) ③ 払込方法 【郵便局の場合】 ア 本学所定の払込用紙(5枚綴りの専用紙)を利用し、各票の「払込人」欄(※印の欄)に、入学志願者(本人に限る)の住所・氏名(英字・漢字ともに必ずフリガナを付す)及び電話番号を黒又は青のボールペンで正確に記入してください。また、払込取扱票(振込通知書)には、出願する研究科名も記入してください。 イ 払込用紙に検定料30,000円を添え、窓口に入れてください。 ウ 「郵便振替払込金受領証」及び「郵便振替払込受付証明書」を受付窓口から受け取る際には、「受付局日附印」が押されていることを確認してください。 エ 払込手数料は、入学志願者本人の負担となります。 【郵便局以外の金融機関の場合】 ア 郵便局以外の金融機関から筑波大学の指定金融機関(三菱東京UFJ銀行または常陽銀行。払込用紙の裏面を参照)の口座宛に払込む場合は、本学所定の払込用紙(5枚綴りの専用紙)を利用し、各票の「払込人」欄(※印の欄)に、入学志願者(本人に限る)の住所・氏名(英字・漢字ともに必ずフリガナを付す)及び電話番号を黒又は青のボールペンで正確に記入してく

			<p>ださい。また、払込取扱票（振込通知書）には、出願する研究科名も記入してください。</p> <p>イ 各票の「振込先」欄に、銀行名（三菱東京UFJ銀行または常陽銀行。払込用紙の裏面を参照）欄に応じて支店名、口座番号をそれぞれ記入してください。</p> <p>ウ 払込用紙に検定料 30,000 円を添え、窓口に納めてください。</p> <p>エ 「郵便振替払込金受領証」及び「郵便振替払込受付証明書」を受付窓口から受け取る際には、「受付局日附印」が押されていることを確認してください。</p> <p>オ 払込手数料は、入学志願者本人の負担となります。</p> <p>【コンビニエンスストアの場合】</p> <p>ア PC 又は携帯電話 Web 上の専用ホームページ、店内にある情報端末を利用して払い込みますので、払込用紙は使用しません。</p> <p>イ 実際の操作の手順については、別紙の案内書「コンビニエンスストアでの検定料払込方法」を参照して払い込んでください。</p> <p>ウ 払込手数料は、入学志願者本人の負担となります。</p> <p>④ 「受付局日附印」が押された「郵便振替払込受付証明書」（金融機関払込）又は「検定料収納証明書（収納印不要）」（コンビニ払込）を入学願書の所定欄にはり付けてください。 「受付局日附印」が押された「郵便振替払込受付証明書」又は「検定料収納証明書」が所定欄にはり付けられていない場合は出願を受理しません。</p>
8	返信用封筒	全員	<p>本学所定の封筒に志願者の住所、氏名を記入し、返信用郵便切手(350円分)をはって提出してください。(受験票、受験者心得等送付用)</p>
9	卒業（見込）証明書	全員（注）	<p>本学大学院への出願資格を満たす大学の卒業（見込）証明書を提出してください。（通常は学士の学位を取得した大学(学部・学群)。また、外国の大学を卒業した者は学士相当の学位を取得したことを証明する書類（学位取得証明書等）を併せて提出してください。）</p> <p>修士課程修了（修了見込み）の出願資格で出願する者は、修士課程の修了（見込）証明書を提出してください。（外国で修士課程を修了した者は修士相当の学位を取得したことを証明する書類（学位取得証明書等）を併せて提出してください。）</p>
10	成績証明書	全員（注）	<p>① 本学大学院への出願資格を満たす大学の成績証明書を提出してください。（通常は学士の学位を取得した大学(学部・学群)）</p> <p>ただし、修士課程修了（修了見込み）の出願資格で出願する者は、修士課程の成績証明書を提出してください。</p> <p>なお、編入学等により認定されている科目がある場合には、編入学等前の成績証明書も併せて提出してください。</p> <p>② 大学評価・学位授与機構で出願資格を得た者は、学位授与証明書（学位授与申請受理証明書）、成績証明書等学位取得に係る証明書すべてを提出してください。</p> <p>③ 大学院修了者（修了見込みの者を含む。）は、大学院における成績証明書も提出してください。</p>
11	研究計画書	全員	<p>本学所定の用紙に、入学後に研究しようとしている内容及びその計画について、記入してください。</p>
12	研究・専門報告書	全員	<p>本学所定の用紙に、これまでの研究内容または専門について 800～1,200 字以内で記入してください。</p>
13	受験承認書（様式任意）	該当者	<p>① 現に大学・大学院に在学している者（平成 24 年(2012 年)3 月卒業・修了見込みの者を除く。）は、当該大学長（所属長）による受験承認書（様式任意 A 4 判）を提出してください。</p> <p>② 現に官公庁・学校・会社等に在職している者（非常勤、アルバイトを除く。）は、当該所属長による受験承認書（様式任意 A 4 判）を提出してください。〔退職して入学する予定の者又は受験承認書の提出が困難な者は、本人がその旨明記した文書（申立書：押印必要）をもって、受験承認書に代えることができます。〕</p>

14	外国人出願者調書	外国人出願者全員	ただし、退職して入学する予定の者は、入学手続き時に「退職証明書」を提出してください。 所要事項を記入し提出してください。
15	国費留学生証明書 (様式任意)	外国人出願者の該当者	他大学に在籍している国費外国人留学生は、当該大学の発行する国費留学生証明書を提出してください。
16	研究歴証明書	外国人出願者の該当者	外国人出願者のうち、大学教育修了までの学校教育の課程が18年に満たない国において大学教育を修了した者で、大学教育修了後、日本国内若しくは国外の大学又は大学共同利用機関等これに準ずる研究機関において、研究生、研究員等として相当期間(おおむね1年以上とする。)研究に従事しており、24歳に達した者及びその見込みの者は、本学所定の用紙に当該機関の長等の証明を受け、提出してください。 ただし、本学の大学院研究生となっている外国人留学生は、本学所定の研究生証明書をもって研究歴証明書に代えることができます。 本学留学生センターで申請の上、研究生証明書の交付を受け提出してください。
17	受付・連絡受信先メール	全 員	本学所定の用紙に所要事項を記入し、提出してください。
18	出願書類等提出明細票	全 員	本学所定の用紙に所要事項を記入し、提出してください。

(注) 婚姻等により証明書と氏名が異なる場合は、戸籍抄本(写し可)を添付してください。

3. 出 願 方 法

- (1) 入学志願者は、出願書類を取りそろえ、出願書類等提出明細票で確認のうえ本学所定の封筒に入れ、下記の出願期間中に受付窓口を持参するか、又は郵便局で書留・速達にして教育推進部教育推進課あて郵送(必着)してください。
- (2) 出願書類の受付期間
平成24年(2012年)1月4日(水)～1月6日(金) 9時～15時(昼休み12時～13時)
(持参、郵送とも期間内に必着のこと。期間終了後到着分は受理しません。)
- (3) 受付場所
筑波大学生物・農林学系A棟106室
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1丁目1番地の1
受付場所周辺地図 URL: http://www.tsukuba.ac.jp/access/map_central.html
- (4) 出願書類を受理したときは、1月13日(金)に「受験票」を発送します。
なお、1月20日(金)までに受験票が到着しないときは、9頁「11. 問い合わせ先」に照会してください。
- (5) 出願に当たっての注意事項
 - ① 提出書類が不足していたり、記載事項に不備がある場合には、出願書類を受理しないことがありますので、提出前によく確認してください。
 - ② 出願後の志望研究科又は専攻の変更は認めません。
 - ③ 出願書類及び既納の検定料は、返還しません。

(注) 出願に当たり、カリキュラム、研究指導分野等について不明な点がある場合は、9頁「9. 過去の入試問題公開状況」の問い合わせ先まで連絡してください。

4. 選 抜 方 法

提出書類及び学力検査の結果を総合的に判定し、入学候補者を決定します。

5. 学 力 検 査 及 び 日 程 等

次の日程のとおり実施します。

専攻	月日	2月1日(水)	
	科目	外国語(200点)	口述試験(200点)
	時間	10:00～12:00	13:00～18:00
生命システム医学	英 語		個別面接 修士課程相当での研究内容及びそれに関連した一般知識について審査する。 なお、医学、歯学又は修業年限6年の獣医学部及び相当からの受験生については専門に関して試問する。
疾患制御医学			

(注) 出願に当たり、志願者は志望研究分野について志望指導教員と事前に連絡をとってください。
(連携大学院方式の志願者は、本学の副指導教員とも併せて連絡をとってください。)

6. 学力検査等の試験場

筑波大学(茨城県つくば市天王台1丁目1番地の1)

[詳細については、9頁「10. 受験についての注意事項等」の「受験者心得」をご覧ください。]

7. 合格者の発表

平成24年(2012年)2月16日(木)10時

筑波大学本部棟前駐車場に掲示するとともに、合格者には、合格通知書を同日「書留」にて発送します。

8. 入学手続

(1) 合格者には、入学手続の日時、場所、提出書類を記載、添付した「入学手続案内」を合格通知書に同封しますので、これに従って入学手続をとってください。

なお、その際有職者(非常勤、アルバイトを除く。)については、任命権者が発行する書類(研修命令書、休職証明書、就学承認書等のいずれか)を併せて提出してください。

(2) 入学時に必要な経費

① 入 学 料 282,000円(入学手続の際納付した入学金は、返還いたしません。)

② 授 業 料 第1期分(4月~9月分)267,900円(年額535,800円)

(注) 1. 入学時及び在学中に、学生納付金の改定が行われた場合は、改定時から新たな納付金額が適用されます。

(注) 2. 入学金については、国費外国人留学生及び平成24年(2012年)3月に本学大学院修士課程又は博士前期課程を修了し、引き続き本学人間総合科学研究科の医学を履修する課程(生命システム医学専攻、疾患制御医学専攻)に進学する場合は不要です。

(3) 外国籍の方は、入学手続時までに「出入国管理及び難民認定法」(昭和26年政令第319号)に基づき、大学院入学に支障のない在留資格を得てください。

なお、本学に外国人留学生として入学を希望する者は必ず「留学」の在留資格を得てください。

9. 過去の入試問題公開状況

研究科(専攻)	閲覧	コピー	郵送	問い合わせ先	電話(直通)
人間総合科学				人間総合科学研究科事務室	029(853)2991
専攻 生命システム医学	○	(注)2	(注)2	医学2専攻事務室	029(853)3008
疾患制御医学					

(注) 1. 過去の入試問題の閲覧又はコピーを希望する者は、事前に専攻の問い合わせ先に連絡してください。

2. 医学系専攻ホームページ(<http://www.md.tsukuba.ac.jp/chs/test/nyushi.htm>)を参照してください。

10. 受験についての注意事項等

受験についての注意事項が記された「受験者心得」を一読し、その指示に従って受験してください。

受験者心得は、本学ホームページ(<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/graduate/index.html>)に平成24年(2012年)1月16日(月)に掲載します。

11. 問い合わせ先

学生募集に関し、不明な点等がある場合には、次まで照会してください。

〒305-8577	茨城県つくば市天王台1丁目1番地の1 筑波大学教育推進部教育推進課大学院入試 電話 029(853)2230・2231 取扱日及び時間:月~金曜日の9時~17時 [ただし、休日(国民の祝日、振替休日)を除く。]
-----------	---

【2月期】

昼 夜 開 講 制

昼夜開講制

1. 出願資格

次の各号のいずれかに該当し、官公庁、病院、学校、会社等に勤務している者又は採用が内定している者

- (1) 大学（医学、歯学又は修業年限6年の獣医学若しくは薬学を履修する課程に限る。）を卒業した者及び平成24年(2012年)3月卒業見込みの者
- (2) 外国において、学校教育における18年の課程を修了した者及び平成24年(2012年)3月修了見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者及び平成24年(2012年)3月修了見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成24年(2012年)3月までに修了見込みの者
- (5) 文部科学大臣の指定した者（昭和30年文部省告示第39号（注1）及び（注2）参照）
- (6) 本学の大学院において行う個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したものと及び平成24年(2012年)3月までに24歳に達するもの（注2）及び（注3）参照）
- (7) 平成24年(2012年)3月末日で外国において学校教育における16年の課程（医学、歯学、獣医学又は薬学を履修する課程を含むものに限る。以下同じ。）を修了し、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了し、又は我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者であって、本学の大学院が、本学の大学院の定める所定の単位を優秀な成績で修得したと認めたもの（注2）参照）

（注1）文部科学大臣の指定した者とは、次の各号のいずれかに該当する者です。

- ① 旧大学令（大正7年勅令第388号）による大学の医学又は歯学の学部において医学又は歯学を履修し、これらの学部を卒業した者
- ② 防衛庁設置法（昭和29年法律第164号）による防衛医科大学校を卒業した者
- ③ 修士課程又は専門職大学院の課程を修了した者及び修士の学位の授与を受けることのできる者並びに前期及び後期の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者（学位規則の一部を改正する省令（昭和49年文部省令第29号）による改正前の学位規則（昭和28年文部省令第9号）第6条第1号に該当する者を含む。）で本学大学院において、大学の医学、歯学又は修業年限6年の獣医学若しくは薬学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- ④ 大学（医学、歯学又は修業年限6年の獣医学若しくは薬学を履修する課程を除く。）を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本学大学院において、当該研究の成果等により、大学の医学、歯学又は修業年限6年の獣医学若しくは薬学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- ⑤ 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本学大学院において、当該研究の成果等により、大学の医学、歯学又は修業年限6年の獣医学若しくは薬学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

（注2）出願資格（5）－（注1）－④、⑤及び出願資格（6）～（7）で出願しようとする者については、出願資格認定審査を行いますので、あらかじめ教育推進部教育推進課（11. 問い合わせ先）へ申し出て次の書類を平成23年(2011年)12月15日（木）までに教育推進部教育推進課へ提出してください。

なお、出願書類は出願資格認定審査が終了するまでその受理を保留します。

- ① 出願資格（5）－（注1）－④、⑤及び出願資格（6）～（7）で出願しようとする者
 - (ア) 出願者調書……………指定様式
 - (イ) 通常の出願書類（但し、検定料は出願資格認定審査結果が出るまでは払込まないでください。）
 - (ウ) その他人間総合科学研究科（医学を履修する課程）が必要と認める書類
- ② 出願資格（6）で出願しようとする者のうち原則として、外国人出願者で、大学教育修了までの学校教育の課程が18年に満たない国において大学教育を修了した者で、次の(a)に該当し、かつ、本学大学院において、(1)の大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
 - (a) 大学教育修了後、国内若しくは国外の大学又は大学共同利用機関等これに準ずる研究機関において研究生、研究員等として相当期間（おおむね1年以上とする。）研究に従事した者及び平成24年(2012年)3月までに従事することとなる見込みの者

(ア) 通常の出願書類（但し、検定料は出願資格認定審査結果が出るまでは払込まないでください。）

（注3）出願資格（6）に該当する者とは、短大・高専・専修学校・各種学校の卒業者、外国大学日本校、外国人学校その他の教育施設の修了者（見込みを含む。）で、個人の能力の個別審査により、本学大学院において、(1)の大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者等です。

出願資格について疑問がある場合は、あらかじめ教育推進部教育推進課〔TEL029(853)2230・2231〕に照会してください。

※ 障害のある者で、受験の際に特別な配慮を必要とする者は、平成23年(2011年)12月15日(木)までに教育推進部教育推進課へ申し出てください。

2. 出願書類等

出願書類により取得した個人情報及び試験成績の個人情報については、入学者選抜に関する業務に利用します。また、入学手続完了者にあつては授業料免除申請者及び日本学生支援機構奨学金申請者に限っては選考の際の審査資料の一部に利用します。

書 類 等	提出該当者	摘 要
1 入 学 願 書	全 員	所要事項を記入(入学願書等記入上の注意を参照)し提出してください。
2 履 歴 書	全 員 (外国人出願者を除く。)	入学願書裏面に所要事項を記入してください。
3 外国人出願者用履歴書	外国人出願者全員	本学所定の用紙に所要事項を記入し、提出してください。
4 職 歴 調 書	全 員	本学所定の用紙に所要事項を記入し、提出してください。なお、採用内定者については、予定として記入し提出してください。
5 受験票・写真票	全 員	所要事項を記入し、写真(出願前3か月以内に撮影した無帽上半身正面のもので、大きさは縦4cm×横3cm、同一の写真を使用)をはって提出してください。 上記要件に合わない場合には、受理しません。
6 机上受験票	全 員	所要事項を記入し、提出してください。
7 検 定 料 (30,000円)	全 員	<p>所定の金融機関からの払込みとなります。外国在住の者は、クレジットカード(VISA、MasterCard、JCB、AMERICAN EXPRESS)により払込むことができます。詳細は、本学ホームページをご覧ください。 http://www.tsukuba.ac.jp/admission/graduate/information.html</p> <p>① 払込期間 平成23年(2011年)12月1日(木)から、出願期間に間に合うよう払込みください。</p> <p>② 払込場所 ア 郵便局、銀行、信用金庫、農協(JA)などの金融機関受付窓口 (ATM(現金自動預け払い機)から払込みすることはできません。必ず金融機関の受付窓口から払込んでください。) イ コンビニエンスストア(ローソン、セブン-イレブン、ファミリーマート、サークルK、サンクスに限ります。)</p> <p>③ 払込方法 【郵便局の場合】 ア 本学所定の払込用紙(5枚綴りの専用紙)を利用し、各票の「払込人」欄(※印の欄)に、入学志願者(本人に限る)の住所・氏名(英字・漢字ともに必ずフリガナを付す)及び電話番号を黒又は青のボールペンで正確に記入してください。また、払込取扱票(振込通知書)には、出願する研究科名も記入してください。 イ 払込用紙に検定料30,000円を添え、窓口に納めてください。 ウ 「郵便振替払込金受領証」及び「郵便振替払込受付証明書」を受付窓口から受け取る際には、「受付局日附印」が押されていることを確認してください。 エ 払込手数料は、入学志願者本人の負担となります。</p> <p>【郵便局以外の金融機関の場合】 ア 郵便局以外の金融機関から筑波大学の指定金融機関(三菱東京UFJ銀行または常陽銀行。払込用紙の裏面を参照)の口座宛に払込む場合は、本学所定の払込用紙(5枚綴りの専用紙)を利用し、各票の「払込人」欄(※印の欄)に、入学志願者(本人に限る)の住所・氏名(英字・漢字ともに必ずフリガナを付す)及び電話番号を黒又は青のボールペンで正確に記入してください。また、払込取扱票(振込通知書)には、出願する研究</p>

			<p>科名も記入してください。</p> <p>イ 各票の「振込先」欄に、銀行名（三菱東京 UFJ 銀行または常陽銀行。払込用紙の裏面を参照）、欄に応じて支店名、口座番号をそれぞれ記入してください。</p> <p>ウ 払込用紙に検定料 30,000 円を添え、窓口に納めてください。</p> <p>エ 「郵便振替払込金受領証」及び「郵便振替払込受付証明書」を受付窓口から受け取る際には、「受付局日附印」が押されていることを確認してください。</p> <p>オ 払込手数料は、入学志願者本人の負担となります。</p> <p>【コンビニエンスストアの場合】</p> <p>ア PC 又は携帯電話 Web 上の専用ホームページ、店内にある情報端末を利用して払い込みしますので、払込用紙は使用しません。</p> <p>イ 実際の操作の手順については、別紙の案内書「コンビニエンスストアでの検定料払込方法」を参照して払い込んでください。</p> <p>ウ 払込手数料は、入学志願者本人の負担となります。</p> <p>④ 「受付局日附印」が押された「郵便振替払込受付証明書」（金融機関払込）又は「検定料収納証明書（収納印不要）」（コンビニ払込）を入学願書の所定欄に貼付けてください。</p> <p>「受付局日附印」が押された「郵便振替払込受付証明書」又は「検定料収納証明書」が所定欄に貼付けられていない場合は出願を受理しません。</p>
8	返信用封筒	全 員	<p>本学所定の封筒に志願者の住所、氏名を記入し、返信用郵便切手 (350 円分)を貼って提出してください。（受験票、受験者心得等送付用）</p>
9	卒業（見込）証明書	全 員（注）	<p>本学大学院への出願資格を満たす大学の卒業（見込）証明書を提出してください。（通常は学士の学位を取得した大学（学部・学群）。また、外国の大学を卒業した者は学士相当の学位を取得したことを証明する書類（学位取得証明書等）を併せて提出してください。）</p> <p>修士課程修了（修了見込み）の出願資格で出願する者は、修士課程の修了（見込）証明書を提出してください。（外国で修士課程を修了した者は修士相当の学位を取得したことを証明する書類（学位取得証明書等）を併せて提出してください。）</p>
10	成績証明書	全 員（注）	<p>① 本学大学院への出願資格を満たす大学の成績証明書を提出してください。（通常は学士の学位を取得した大学（学部・学群））</p> <p>修士課程修了（修了見込み）の出願資格で出願する者は、修士課程の成績証明書を提出してください。</p> <p>なお、編入学等により認定されている科目がある場合には、編入学等前の成績証明書も併せて提出してください。</p> <p>② 大学評価・学位授与機構で出願資格を得た者は、学位授与証明書（学位授与申請受理証明書）、成績証明書等学位取得に係る証明書すべてを提出してください。</p> <p>③ 大学院修了者（修了見込みの者を含む。）は、大学院における成績証明書も提出してください。</p>
11	研究計画書	全 員	<p>本学所定の用紙に、入学後に研究しようとしている内容及びその計画について、記入してください。</p>
12	研究・専門報告書	全 員	<p>本学所定の用紙に、これまでの研究内容または専門について 800～1,200 字以内で記入してください。</p>
13	受験承認書 （様式任意）	該 当 者	<p>所属長（研究所長等）の発行する受験承認書（様式任意 A 4 判）を提出してください。</p> <p>① 現に大学・大学院等に在学している者（平成 24 年(2012 年)3 月卒業・修了見込みの者を除く。）は、当該大学等の長（所属長）による受験承認書（様式任意 A 4 判）を提出してください。</p> <p>② 現に官公庁・病院・学校・会社等に在職している者（非常勤、アルバイトを除く。）は、当該所属長による受験承認書（様式任意 A 4 判）を提出してください。〔退職して入学する予定の者又</p>

			は受験承認書の提出が困難な者は、本人がその旨明記した文書（申立書：押印必要）をもって、受験承認書に代えることができます。ただし、退職して入学する予定の者は、入学手続き時に「退職証明書」を提出してください。]
14	外国人出願者調書	外国人出願者全員	所要事項を記入し、提出してください。
15	国費留学生証明書 (様式任意)	外国人出願者の該当者	他大学に在籍している国費外国人留学生は、当該大学の発行する国費留学生証明書を提出してください。
16	研究歴証明書	外国人出願者の該当者	外国人出願者のうち、大学教育修了までの学校教育の課程が18年に満たない国において大学教育を修了した者で、大学教育修了後、日本国内若しくは国外の大学又は大学共同利用機関等これに準ずる研究機関において研究生、研究員等として相当期間（おおむね1年以上とする。）研究に従事しており24歳に達した者及びその見込みの者は、本学所定の証明書用紙に当該機関の長等の証明を受け、提出してください。
17	受付・連絡受信先	全 員	本学所定の用紙に所要事項を記入し、提出してください。
18	出願書類等提出明細票	全 員	本学所定の用紙に所要事項を記入し、提出してください。

(注) 婚姻等により証明書と氏名が異なる場合は、戸籍抄本(写し可)を添付してください。

3. 出 願 方 法

- (1) 入学志願者は、出願書類を取りそろえ、出願書類等提出明細票で確認のうえ**本学所定の封筒**に入れ、下記の出願期間中に受付窓口を持参するか、又は**郵便局で書留・速達**にして教育推進部教育推進課あて郵送**(必着)**してください。

なお、出願に当たり、志望研究分野について志望指導教員と事前に連絡をとる必要があります。

- (2) 出願書類の受付時間

平成24年1月4日(水)～1月6日(金) 9時～15時(昼休み12時～13時)

(持参、郵送とも期間内に必着のこと。期間終了後到着分は受理しません。)

- (3) 受付場所 筑波大学生物農林学系 A 棟 106 室

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1丁目1番地の1

受付場所周辺地図 URL: http://www.tsukuba.ac.jp/access/map_central.html

- (4) 出願書類を受理したときは、1月13日(金)に「受験票」を発送します。

なお、1月20日(金)までに受験票が到着しないときは、17頁「11. 問い合わせ先」に照会してください。

- (5) 出願に当たっての注意事項

- ① 提出書類が不足していたり、記載事項に不備がある場合には、出願書類を受理しないことがありますので、提出前によく確認してください。
- ② 出願後の志望研究科又は専攻の変更は認めません。
- ③ 出願書類及び既納の検定料は、返還しません。

(注) 出願に当たり、カリキュラム、研究指導分野等について不明な点がある場合は、17頁「9. 過去の入試問題公開状況」の問い合わせ先まで連絡してください。

4. 選 抜 方 法

提出書類及び学力検査の結果を総合的に判定し、入学候補者を決定します。

5. 学力検査及び日程等

次の日程により実施します。

〔人間総合科学研究科〕

専攻	月日	2月1日(水)	
	科目	外国語(200点)	口述試験(200点)
	時間	10:00~12:00	13:00~18:00
生命システム医学	英語	個別面接 修士課程相当での研究内容及びそれに関連した一般知識について審査する。 なお、医学、歯学又は修業年限6年の獣医学部及び相当からの受験生については専門に関して試問する。	
疾患制御医学			

(注) 出願に当たり、志願者は志望研究分野について志望指導教員と事前に十分に連絡をとってください。

6. 学力検査等の試験場

筑波大学(茨城県つくば市天王台1丁目1番地の1) [詳細については、「受験者心得」で通知します。]

7. 合格者の発表

平成24年(2012年)2月16日(木) 10時

筑波大学本部棟前駐車場に掲示するとともに、合格者には、合格通知書を「書留」にて発送します。

8. 入学手続

(1) 合格者には、入学手続の日時、場所、提出書類を入学手続案内により通知しますので、これに従って入学手続をとってください。

なお、その際有職者(非常勤、アルバイトを除く)については、任命権者が発行する書類(研修命令書、休職証明書、就学承認書等のいずれか)を併せて提出してください。

(2) 入学時に必要な経費

① 入学料 282,000円(入学手続の際納付した入学料は、返還いたしません。)

② 授業料 第1期分(4月~9月分) 267,900円(年額535,800円)

(注) 1. 入学時及び在学中に、学生納付金の改定が行われた場合は、改定時から新たな納付金額が適用されます。

2. 入学料については、国費外国人留学生、及び平成24年(2012年)3月に本学大学院修士課程又は博士前期課程を修了し、引き続き本学人間総合科学研究科の医学を履修する課程(生命システム医学専攻、疾患制御医学専攻)に進学する者は不要です。

(3) 外国籍の方は、入学手続き時までに「出入国管理及び難民認定法」(昭和26年政令第319号)に基づき、大学院入学に支障のない在留資格を得てください。

なお、本学に外国人留学生として入学を希望する者は必ず「留学」の在留資格を得てください。

9. 過去の入試問題公開状況

研究科(専攻)	閲覧	コピー	郵送	問い合わせ先	電話(直通)
人間総合科学				人間総合科学研究科事務室	029(853)2991
専攻				医学2専攻事務室	029(853)3008
生命システム医学	○	(注)2	(注)2		
疾患制御医学					

(注) 1. 過去の入試問題の閲覧又はコピーを希望する者は、事前に専攻の問い合わせ先に連絡してください。

2. 医学系専攻ホームページ(<http://www.md.tsukuba.ac.jp/chs/test/nyushi.htm>)を参照してください。

10. 受験についての注意事項等

受験についての注意事項が記された「受験者心得」を一読し、その指示に従って受験してください。

受験者心得は、本学ホームページ(<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/graduate/index.html>)に平成24年(2012年)1月16日(月)に掲載します。

11. 問い合わせ先

学生募集に関し、不明な点等がある場合には、次まで照会してください。

〒305-8577	茨城県つくば市天王台1丁目1番地の1 筑波大学教育推進部教育推進課大学院入試 電話 029(853)2230・2231 取扱日及び時間：月~金曜日の9時~17時 〔ただし、休日(国民の祝日、振替休日)を除く。〕
-----------	---

研究科の概要

研究科教員研究分野一覧

大学院博士課程研究科の概要

1. 研究科案内

人間総合科学研究科 (<http://www.chs.tsukuba.ac.jp>)

これからの人間社会は、難病、複雑な社会システムに起因するストレス、多様な価値観に対応する教育、障害者福祉、高齢化社会における健康・医療・福祉、心身の健康の保持、生活の質（QOL）の向上、文化の創造と保存など、人間自身について解決すべき問題をますます抱えることになるでしょう。そしてその兆候は、近年ますます明確になってきました。このことは、これらの問題に対する有効な対処法を探るために、「人間」に関する高度な基礎的・応用的研究を推進する研究者、及び「人間」の諸問題に対して最善の対処法を身につけた実践家（高度専門職業人）を養成する必要があることを意味します。そのためには、これからの「人間」に関する学問は、「人間」の生物身体的、教育福祉的、精神文化的な3側面を同等に重視しながら、これらを統合し異なる学問領域が連携する総合科学を目指すことが極めて重要になります。

本研究科は、このような社会的要請に応えるために開設されたものであり、人間系（教育学、心理学、障害科学、発達科学）、体育・芸術系（体育科学、芸術学、世界遺産学）、医学系（基礎医学、臨床医学、社会医学、看護科学）及び学際系の諸学問領域が連携し、共通の研究対象である「人間」をキーワードとして、幅広く「人間」を研究する研究科です。

本研究科では、平成20年4月より従来の5年一貫制から区分制（前期・後期）へと全面移行しました。新しい専攻は、下記のとおりです。修士課程を含めて区分制前期課程は、柔軟な組織編制となり、幅広い視野と総合的・学際的な知識・技能や高度な専門性を養う課程であり、後期課程・3年制博士課程及び医学課程は、体系的・集中的な教育課程を編成し、自立的・創造的な研究能力を身につけた研究者や高度専門職業人を育成する課程です。このような再編の最大の利点は、前期課程等で学んだ者が関連する多くの後期課程等に進学する機会が開かれていることです。また、学外者についても修士号を取得している者は後期課程等を選択し受験することができます。

- 人間系-9専攻：教育学（前期）、教育基礎学（後期）、学校教育学（後期）、心理（前期）、心理学（後期）、障害科学（前期・後期）、生涯発達（前期：東京地区）、生涯発達科学（後期：東京地区）
- 体育・芸術系-8専攻：スポーツ健康システム・マネジメント（修士課程：東京地区）、体育学（前期）、体育科学（後期）、コーチング学（3年制博士）、芸術（前期・後期）、世界遺産（前期）、世界文化遺産学（後期）
- 医学系-5専攻：フロンティア医科学（修士課程）、生命システム医学（医学課程）、疾患制御医学（医学課程）、看護科学（前期・後期）
- 学際系-4専攻：ヒューマン・ケア科学（3年制博士）、感性認知脳科学（前期・後期）、スポーツ医学（3年制博士）

本研究科では、上記の26専攻が相互に連携しながら、「人間」に関する基礎から応用までの高度な教育研究を推進することにより、それぞれの固有の学問領域においてさらに高度な研究を計画実行できる研究者、及び「人間」に関して幅広い知識をもち優れた学際研究を計画実行できる研究者、さらには複合的な視点から「人間」を捉え、さまざまな生き方をしている「人間」に対して柔軟かつ適切な支援を企画実行できる高度専門職業人を養成します。

各専攻の概要

○生命システム医学専攻

ゲノム科学の急速な発展に伴い、生命についての基礎的研究が飛躍的に進展し、医学を含めたヒトの生命科学に関連した研究教育は、地球規模で高度化の速度を速めています。本専攻は、分子細胞生理学、分子生物腫瘍学、分子薬理学、分子神経生物学、診断病理学、実験病理学、腎・血管病理学、免疫制御医学、モデル動物学、解剖学・発生学、再生医学幹細胞・医工学、遺伝医学、感染生物学、病態生化学、環境医学、社会健康医学、法医学、ゲノム機能学（連携大学院）、国際医療学（連携大学院）、医学ウイルス学（連携大学院）、環境保健学（連携大学院）、蛋白質代謝学（連携大学院）の22分野からなり、生命の恒常性維持機構の理解に加えて、がん、生活習慣病、神経疾患、感染症、アレルギー、膠原病を含めた免疫疾患、公害病、職業性疾患、ゲノム疾患などの病因を解明するための教育研究に取り組んでいます。本専攻では、これらの諸問題について、遺伝子、細胞、組織、個体、社会、環境を含めた生態、などの各レベルを総合的に見渡しながら、分子生物学／分子遺伝学的な研究方法に加えて、社会医学的な方法も用いて、解析をすすめています。このような包括的視野に立脚した教育研究を展開し、他専攻とも連携して、幅広い学識を修得させ、柔軟な考え方や応用力を養わせます。また、自立心と国際性を涵養する武者修行型学修を通じて独創的な研究を遂行する能力と最先端の技術を開発する能力を持った、世界レベルで活躍し社会に貢献できる研究者を育成することと、その成果の臨床応用を柔軟に志向できる高度専門職業人を養成することを目指します。入学後に、留学生とともに英語で学ぶInternational Doctoral Program、理・農・医学を超えた学際的学修環境で学ぶ未来生命科学プログラムなどを選択することが可能です。詳しくは、ホームページ等で確認ください。

○疾患制御医学専攻

生命科学、特に分子生物学や遺伝子工学の進歩は著しく、ヒトの成長、発達、老化をにやう遺伝子や、免疫異常、神経・精神疾患、悪性腫瘍、生活習慣病などの責任遺伝子が明らかにされ病態解明が進んでいます。本専攻では、各種疾患の発生機序を分子から個体まであらゆるレベルにおいて解明し、新しい機能修復法ならびに制御法（治療法）の開発を推進します。その中で、科学的かつ人間的な次代の医療をにやうリーダーを育成するための教育を行います。加えて、生命科学の発展により生ずる様々な問題を的確に把握するための基礎的知識を持ち、問題解決のための医療技術の開発・実践を適切な倫理観に基づいて行うことのできる人材を養成します。このような最先端の知識、医療技術、ならびに高い倫理性を有した高度専門医療職業人の育成を通して、本専攻における教育と研究の成果を実地医療に還元します。

2. 連携大学院方式

近年の科学技術の急速な発展と高度化に伴い、研究分野の細分化、専門化が進む一方、従来の学問体系を越えて新しい境界領域が開拓され、学際的な研究が推進されるようになりました。

特に、基礎から応用分野に係る広い範囲の知識を必要とする学際研究では、専門分野を異にする研究者間の協力による総合的な研究が重要となっており、また、これに対応する、時代に即した新しい型の研究者育成が強く求められています。

本方式は、これらの学問的、社会的要請に応えるため、筑波研究学園都市等にある多数の国立・独立行政法人・民間企業等の研究機関と連携を図り、その研究者を本学の教授又は准教授に任用し、最新の研究設備と機能を有する研究所において学生の研究指導を行い、教育・研究領域を多様化して大学院教育を活性化するとともに、これらの研究機関との交流を深めて新たな研究領域を確立することを目的としています。

3. 大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例（昼夜開講制）について

近年の経済社会の発展や技術革新の進展等により、大学院に対する社会の要請が一層多様かつ高度となっており、特に社会人の再教育に対する需要は急速な高まりを見せています。今後は、社会の一層の高度化、複雑化や国際化の進展に伴い、大学院において社会の多方面で、さらには国際社会で活躍し得る優れた人材を養成することがますます重要となってきます。このため大学院設置基準第14条は、「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」旨規定し、大学院の教育方法、形態等について弾力化を図っています。

本学博士課程でも、従来の目的に加えて、社会人の再教育をはじめ社会の多方面、さらには国際社会で活躍し得る高度な能力と豊かな学識を有する者を養成することにより、社会に根ざした本学の教育、研究の一層の活性化と発展を期してこの大学院設置基準第14条に基づき、人間総合科学研究科（2専攻）において昼夜開講制を導入しています。この制度により、多くの有望な社会人に在職のまま大学院の正規の授業を受けさせ、教育研究及び実践上の指導的役割を果たし得る学識と能力を培う機会を提供しています。

筑波大学大学院博士課程研究科教員研究分野一覧

<生命システム医学専攻>

研究分野	教員名	研究内容
分子細胞生理学	石井哲郎 岡村直道	高等動物の酸化ストレスに対する細胞の応答機構や抗酸化タンパク質の生理機能を学び、酸化ストレスと生活習慣病との関連についてシグナル伝達の解析などの実験研究を行う。 哺乳動物の配偶子形成機構と生殖輪管や乳腺の発達について細胞間相互作用・細胞間情報伝達を担う分子に着目して実験研究を行う。
分子生物腫瘍学	入江賢児 久武幸司	非対称分裂、細胞極性の形成、mRNA 局在の制御機構の研究を通じて、発生や分化など高次の生命現象を分子レベルで解明し、それらの異常によるがんなど疾患の分子機序を理解する。 遺伝情報の発現制御機構を分子レベルで理解するために、転写反応に関与する転写因子やクロマチン関連因子の実験・研究を行う。 がん化におけるゲノム不安定性誘導機構の研究、ゲノムワイドの遺伝子とタンパク質発現解析からの診断・創薬ターゲットの研究を行う。
分子薬理学	柳沢正史	睡眠・覚醒、エネルギー代謝、ストレス・情動などの高次中枢機能の制御メカニズムを、脳内の情報伝達物質とその受容体の機能解析から明らかにする。
分子神経生物学	梶正幸	神経系の発生と情報伝達を制御する遺伝子、分子の研究を通して、神経系の構築原理と機能発現のメカニズムを分子レベルで解明する。
診断病理学	野口雅之	前がん病変や背景病変を含めたヒト発がんの多段階分子構造の解明と新しい知見を基盤にしたがんの予防・診断・治療への応用に関する研究を行う。また肝臓を主に用いた再生医療に関する研究を行う。
実験病理学	加藤光保	幹細胞の動態を中心とした正常組織の形成機構とがんの発生について、トランスフォーミング増殖因子β 関連分子の作用を明らかにし、新たな分子標的治療や発がん予防法の確立を目的として、遺伝子改変動物や培養細胞を用いた実験病理学的研究を行う。
腎・血管病理学	長田道夫	動脈硬化や慢性腎臓病の発症進展機構について、人体標本および遺伝子改変動物等を用い、分子病理学的に解析し、個体レベルでその機構を理解する。
免疫制御医学	澁谷彰	生体防御反応である免疫システムを遺伝子・分子、細胞、個体レベルで論じ、その生理的意義について理解する。また免疫反応の破綻と考えられる種々の病態の機構や免疫学の臨床医学への応用について実験・研究を行う。
モデル動物学	八神健一	ヒト疾患研究のため、モデル動物の開発に必要な遺伝子操作技術、病態解析法、遺伝的・微生物的品質管理技術、これらの基盤となる実験動物全般の知識と動物実験の基本技術について学ぶ。
解剖学・発生学	高橋智	分子生物学、発生工学、組織学的な手法を駆使して、高等動物の細胞分化メカニズムを明らかにする。またそのメカニズムの医学的応用を研究する。
再生医学幹細胞・医工学	大根田修	<ul style="list-style-type: none"> ヒト幹細胞の増殖・分化機構解明を目的に、幹細胞と周囲支持細胞との相互作用を分子レベルで解明する ヒト幹細胞を用いた細胞治療法の確立を目標に、トランスレーショナルリサーチに取り組む 癌発生における血管内皮細胞の機能解析を目的に、低酸素応答転写因子を中心とした研究を行う
遺伝医学	有波忠雄	<ul style="list-style-type: none"> ゲノム解析に基づいたアトピー、花粉症、喘息の分子病態の解明と新規治療薬の探索 ゲノム解析に基づいた精神疾患の分子病態の解明と動物行動解析

研究分野	教員名	研究内容
感染生物学	永田恭介	<ul style="list-style-type: none"> 細胞およびウイルスクロマチンの機能制御機構 ウイルス増殖と病原性の分子機構 ウイルス工学による疾患の制御 細胞周期と細胞がん化の制御
	(齋藤慎二)	<ul style="list-style-type: none"> 自然免疫応答による感染制御機構 細菌の病原因子の作用機序 病原細菌の環境応答とスクレオイド動態
病態生化学	金保安則	<ul style="list-style-type: none"> ノックアウトマウスを用いたシグナル伝達系の障害と疾患に関する研究 個体発生における各種シグナル伝達系の機能解析 高次脳機能構築における各種シグナル伝達系の機能解析 細胞移動やがん細胞浸潤、細胞極性形成の制御機構の解析
環境医学	熊谷嘉人	<ul style="list-style-type: none"> 親電子性環境化学物質のケミカルバイオロジー 化学修飾を受けたタンパク質を感知する細胞内品質管理システム
	松崎一葉	<ul style="list-style-type: none"> 環境因子による健康障害の機序とその対策の実践的研究 職場ストレス要因による健康障害の機序とその対策の実践的研究 環境ストレス要因におけるリスクマネジメントの構築と実践的研究 医師をはじめとした過重労働による健康障害の機序とその対策の実践的研究
社会健康医学	土屋尚之	<ul style="list-style-type: none"> ヒトゲノム解析に基づくリウマチ・膠原病の病因・病態解析 人類集団における免疫系分子多様性とその意義 多因子疾患発症における遺伝子環境相互作用の解析
	坂田由美子	<ul style="list-style-type: none"> 思春期の健康支援と組織連携に関する研究 自己肯定感に関する研究 自宅介護者の健康支援に関する研究 地域保健・学校保健に関する研究
法医学	本田克也	<ul style="list-style-type: none"> 内因性急死の発生機序の解明 DNA多型の個人識別への応用 薬毒物測定法の開発およびその応用 中毒のメカニズムの解明 中毒情報の収集とその解析
医学物理学	榮武二	<ul style="list-style-type: none"> 放射線・粒子線治療の高精度化、安全性向上のための研究 加速器を使った新しい治療技術の開発 放射線利用の品質管理のための新技術の開発 放射線治療による線量分布を精度良く評価する技術の開発
放射線生命医学	坪井康次	<ul style="list-style-type: none"> 放射線の生体影響に関する分子・細胞生物学的研究 陽子線を用いた新たな治療法の研究開発 医療放射線による生体影響評価と防御法の開発研究 放射線照射の腫瘍免疫に及ぼす影響に関する研究

【連携大学院方式】（昼夜開講制で出願する者は、連携大学院方式の教員を指導教員とすることはできません）

研究分野	教員名	研究内容
ゲノム機能学	石井俊輔 中村幸夫 (理研)	多くの生命現象は多くの遺伝子の協調的な発現によって制御されている。 本科目では生命現象の基本である遺伝子の発現制御メカニズムを明らかにすることを目標とし、特に重要な制御因子の機能を最新の種々の技術を用いて解析する。
国際医療学	狩野繁之 (国医セ)	地球規模での人口の動態、環境保全、貧富、文化に基づいた医療の問題を概説し、特に熱帯医学、国際感染症学、国際医療協力についての実例について演習し問題の解決策を策定する。
医学ウイルス学	倉根一郎 (感染研)	<ul style="list-style-type: none"> ・ウイルス性出血熱、特にデング出血熱の病態形成機構の解明 ・出血熱ウイルスに対する生体防御機構の解明 ・フラビウイルスに対する新型ワクチンの開発 ・出血熱ウイルスの分子疫学的研究
環境保健学	藤巻秀和 (国環研)	・環境中の有害化学物質による健康への影響を、感受性にかかわる遺伝的要因、発達期要因、既往症などの観点から解明し、その予防に役立てる。
蛋白質代謝学	田中啓二 (臨床研)	蛋白質は細胞内で合成され、また分解される。蛋白質の分解過程には、ユビキチン・プロテアソーム系をはじめ、いくつかの課程があるが、蛋白質分解は種々の生理機能や病態にも関与している。このような蛋白質分解について解析する。

(理研) = 理化学研究所 筑波研究所・横浜研究所

(国医セ) = 厚生労働省 国立国際医療研究センター研究所

(感染研) = 厚生労働省 国立感染症研究所本所

(国環研) = 独立行政法人 国立環境研究所

(臨床研) = 財団法人 東京都医学研究機構 東京都臨床医学総合研究所

<疾患制御医学専攻>

研究分野	教員名	研究内容
応用放射線医学	南 学	新しい画像撮像技術としてCT、MRI、PET、SPECT、US、放射光CTが開発され、医学診断等に利用されている。これらの手法の基礎的な撮像原理や実際の診断を学び、将来の応用・革新に繋がり得る研究を行う。
粒子線腫瘍医学	櫻井英幸	粒子線（陽子、中性子など）を含む放射線を用いて行う癌治療について研究する。生物への放射線の影響を検討する放射線生物学と放射線治療の物理工学およびそれらの臨床応用について学ぶ。
消化器外科学・臓器移植学	大河内信弘	1) 肝再生機構の解明：特に血小板が果たすユニークな機能に着目した新規肝再生促進法を開発する。 2) 難治癌の発癌機序の解明と新規治療法の開発：ナノテクノロジーを用いて発癌機序を解明する。遺伝子導入細胞、治療薬等を封入したマイクロカプセルを癌病巣に投与する治療法やアンチセンスを用いたRNAサイレンシング治療の開発を行う。 3) 創傷治癒機序の解明：消化管吻合における治癒メカニズムを解明し、適切な栄養に基づいた治癒促進法を開発する。 4) 臓器移植：移植免疫、組織適合性、免疫制御剤、臓器保存などの基礎的問題を学ぶ。 これらの研究を通して、消化器外科・臓器移植学の基礎的知識を習得し、将来的な新規治療を開発する上での着眼力、思考力を身につける。
代謝・内分泌制御医学	島野仁 曾根博仁	糖尿病、メタボリック・シンドローム、高脂血症、肥満の背景にある生活習慣病の分子機構を解明し、治療戦略を探索する。さらに動脈硬化・糖尿病合併症などの血管病態に関わる細胞生物学、内分泌疾患の分子病態を研究する。
臨床免疫学	住田孝之	関節リウマチや膠原病などの自己免疫病において、その発症機構を免疫学的・分子生物学的手法を用いて分子レベルで解明する。さらに、分子をターゲットとした特異的な治療戦略の開発をめざす。
血液病態制御医学	千葉滋 二宮治彦	造血系の機能・生理および血液凝固・線溶系の機構、さらにはこれらに異常をきたした場合の治療・制御法を研究する。適切な実験計画の下、これらの研究テーマを遂行するための、分子生物学、細胞生物学、生化学的実験手法を習得する。
運動器系制御医学	落合直之	末梢神経再生、人工神経開発、軟骨再生、靭帯再建、人工関節開発、脊髄障害の機能修復など運動器系制御医学の講義と、文献の抄読・紹介や研究成果の発表方法の演習、並びに、以上のテーマの研究実験を行う。
呼吸循環システム制御医学	佐藤幸夫	1) 肺の水分バランスの変化を、リンパ循環の測定をもとに研究する。 2) 癌の肺転移のメカニズムを微小循環計測の手法で研究する。 3) 肺癌の遺伝子診断・治療をめざした基礎的・臨床的な研究を行う。
臨床分子病態検査医学	川上康修 浦山修	感染症、悪性腫瘍、遺伝性疾患、生活習慣病における病態解析について分子生物学的、生化学的アプローチにより新しい診断法を開発する。
皮膚病態医学	大塚藤男	皮膚・皮膚疾患を分子生物学、細胞生物学、免疫学などの視野から総合的に解析して、その病態を研究する。これに基づいて、新しい診断・治療法の開発を目指す。皮膚癌や角化症、アトピー性皮膚炎の研究に力を入れる。
消化器病態医学	兵頭一之介	消化器疾患（消化管、肝・胆・膵疾患）の発生機序並びに進展様式について生化学、生理学、免疫学、分子生物学などの多方面からのアプローチによりとらえ研究する。特に消化器癌の早期診断法や難治癌の新たな治療法の開発をめざす。
呼吸病態医学	檜澤伸之 大塚盛男	主要呼吸疾患（慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、間質性肺炎、肺癌）の病態を分子細胞生物学的立場から述べると共に合わせて最新の文献紹介、討論を行う。 上記疾患中からテーマを選び、研究実験を行う。

研究分野	教員名	研究内容
循環器病態医学	青沼和隆 宮内卓 本間覚	循環器疾患の病態について電気生理学的、血行動態学的ならびに分子生物学的アプローチにより診断し、治療法を開発する。臨床応用を目標に心筋と血管の再生医療、生理的ペースメーカー細胞開発の研究を行う。
腎臓病態医学	山縣邦弘	腎臓病の病態、原因、治療に関する病理学、免疫学、生化学、生理学分子生物学的なアプローチの方法について概説する。さらにそれらの具体的な方法論を理解した上で、テーマを設定し、実験を行う。
小児内科学	須磨崎亮	発生、分化、アポトーシス、再生を含む成長発達の正常および病的過程を分子生物学的に解析し、健康の増進、疾患の治療に結び付ける方策を考案し、あわせて生命倫理の概念を応用できる小児を対象とした研究者を育成する。
精神病態医学	朝田隆	心の時代といわれる今日、精神の障害の中でもとくに統合失調症、気分障害、高次脳機能障害、認知症に注目している。これら疾患の病因・病態をゲノミクス、プロテオミクス、そして脳機能画像研究などを用いて追及・理解する。また、神経心理や新たな精神療法にも注目する。
神経病態医学	玉岡晃	アルツハイマー病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、筋ジストロフィー、重症筋無力症などの神経筋疾患の病態・発症機序の解明と治療・予防法の開発を形態学・生理学・生化学・分子生物学・臨床遺伝学・臨床神経学などの手法を駆使して研究する。
循環呼吸機能再建医学	榊原謙 筒井達夫	循環呼吸器の臓器機能を理解し、その機能障害を改善・維持・温存し、機能する再建医学を、外科的手段を用いるばかりでなく、人工臓器や分子レベルの最先端研究を含む多くの研究領域と幅広く連携して、確立する。
腎泌尿器科学・男性機能科学	西山博之	尿路生殖系に発生する様々な病態について分子生物学・形態学・病態生理学・疫学的に学ぶ。また予防・診断・治療・生活の質の改善などに関わる臨床での問題点を取り上げ問題解決を志向した研究や調査を立案し行う。
乳腺内分泌外科学	原尚人	エラストグラフィを用いて乳腺、内分泌腫瘍の組織弾性について学ぶ。
形成再建外科学	関堂充	各種組織の移植後の変化、創傷治癒、機能回復の過程について学ぶ。形態、機能を再建するための組織の構成と量のプランニングを研究する。
婦人周産期医学	吉川裕之	婦人周産期医学に対する理解を深めるために、女性生殖器を中心とした正常（解剖、性周期、妊娠、分娩、胎児医学等）と異常（妊娠中の母体疾患・胎児疾患、婦人科疾患等）について学ぶと共に、研究・実験を行う。
眼科学	大鹿哲郎	視覚器の構造と機能、視覚の成立の生理的機構、視覚を障害する要因、視覚障害の成立機序と病態について学ぶ。視覚障害の制御・治療法の基礎と臨床を学び、各種視覚障害に関する臨床的および実験的研究を行う。
聴覚平衡機能制御医学	原晃	耳およびその中枢路の病態研究法、電気生理学的診断法、分子生物学的研究法などの原理と手法を学習し、これらの方法から得られた情報を各種耳疾患に対応させ、それらの発症機序について研究する。
顎口腔外科学	武川寛樹	顎口腔領域の構造と機能の特徴を学ぶ。疾患による形態と機能の異常について、原因、部位との関係を理解すると共に、障害回復のための基礎的、臨床的検討を行い、顎口腔領域における形態と機能の関連を調べる。
脳神経機能制御医学	松村明	脳神経機能の正常、および病態を理解し、病態を理解する中から観血的・非観血的手法を用いてその機能の修正を試みる。さらに機能修正のための新しい技法の開発にあたる。

研究分野	教員名	研究内容
麻酔・蘇生学	田中 誠 水谷 太郎	侵襲に対する呼吸・循環・エネルギー代謝・中枢神経系の反応を理解する。この侵襲に対する生体反応を麻酔薬・循環作動薬がどのように制御するか学ぶ。
臨床薬剤学	幸田 幸直	薬物による生体機能の制御においては体内動態が重要である。 1) 薬物動態解析方法 2) 薬物動態に影響する薬物代謝酵素・輸送蛋白 3) 薬物動態の変動による副作用・相互作用 の基礎知識を学ぶと共に、研究を行う。
地域医療教育学	前野 哲博	地域医療と医学教育をテーマとした研究を行う。地域医療については、プライマリ・ケア領域における臨床研究および地域医療の充実に関する研究（地域における医療職支援、住民を対象としたヘルスプロモーション等を含む）を行う。 医学教育については、臨床医学教育の充実および地域医療を実践できる人材を養成するシステムの開発について研究する。
臨床試験・臨床疫学	我妻 ゆき子	臨床疫学の基本デザインとその応用について学習し、さらに演習や実習を通じてその計画、実施、報告書作成までの各ステップを遂行するスキルを身につける。

【連携大学院方式】（昼夜開講制で出願する者は、連携大学院方式の教員を指導教員とすることはできません）

研究分野	教員名	研究内容
分子情報医学	宮田 桂司 西村 伸太郎 (アステラス)	各種生理活性物質の作用発現を仲介する受容体やイオンチャネルの活性化によって開始される細胞内情報伝達機構を題材とする。情報伝達に参与するタンパク質と、その発現異常に基づくと考えられる疾患の関連を、各種病態モデル動物を用いて解析することにより、新薬の開発を目指す。
生体材料・再生医工学	谷口 彰良 (物材研)	細胞と生体材料の相互作用を遺伝子の発現レベルで検討するとともに、細胞-材料間のインターフェースをナノメートルレベルで観察・研究する。これらの技術を用いて歯や肝臓の再生を目指す。
生体分子機能学	成松 久 (産総研)	ゲノム世代からプロテオーム世代が始まっている。しかし生体内の大部分のタンパク質は糖鎖修飾を受けて、糖タンパク質として存在する。糖鎖構造はきわめて複雑で解析が困難なため、今まで研究が進まなかった分野である。現時点では、ほとんどの大学で糖鎖生化学、糖鎖生物学の講座はきわめて少ない。我々の研究室では、ポストゲノム世代の到来とともに、糖鎖修飾に必要な遺伝子の機能解析が進行中である。神経系、免疫系、消化器系、呼吸器系など、ありとあらゆる臓器の機能と、糖鎖が関係していることがわかりかけてきた。糖タンパク質を1種類の物質としてとらえ、それを網羅的に解決しようとするプロジェクトが開始されつつある。これをプロテオミクス後の世代の研究として「第3世代としてのグライコプロテオミクス」と命名した。今後、大きく発展する研究分野である。
分子創薬学	澤田 光平 (エーザイ)	ヒトゲノムの解読を機に疾患治療標的遺伝子が注目されており、その現状をよく理解する。異常な遺伝子や遺伝子多型、それより発現する蛋白は疾患の病因や悪化因子となり、創薬の標的となり得ることの本質を研究する。
医薬品・医療機器審査科学	三宅 真二 (PMDA)	医薬品・医療機器の審査プロセスを学ぶことにより、レギュラトリーサイエンスの基本を身につけ、医学系各分野の学識や最先端技術の応用に資する。

(アステラス) = アステラス製薬株式会社
(物材研) = 独立行政法人 物質・材料研究機構
(産総研) = 独立行政法人 産業技術総合研究所
(エーザイ) = エーザイ (株) 筑波研究所
(PMDA) = (独) 医薬品・医療機器総合機構

入学願書等記入上の注意

1. 入学願書に記入した氏名、生年月日、性別は、基本データになりますので正確に記入してください。
2. ※欄は記入しないでください。
3. 本籍（国籍）欄は、日本国籍を持つ者は都道府県名を、外国籍を持つ者は国名を記入してください。
本籍コード、研究科・専攻コードは、次の該当するコードを記入して下さい。

〔本籍コード〕

北海道 →01	埼玉県 →11	岐阜県 →21	鳥取県 →31	佐賀県 →41
青森県 →02	千葉県 →12	静岡県 →22	島根県 →32	長崎県 →42
岩手県 →03	東京都 →13	愛知県 →23	岡山県 →33	熊本県 →43
宮城県 →04	神奈川県→14	三重県 →24	広島県 →34	大分県 →44
秋田県 →05	新潟県 →15	滋賀県 →25	山口県 →35	宮崎県 →45
山形県 →06	富山県 →16	京都府 →26	徳島県 →36	鹿児島県→46
福島県 →07	石川県 →17	大阪府 →27	香川県 →37	沖縄県 →47
茨城県 →08	福井県 →18	兵庫県 →28	愛媛県 →38	
栃木県 →09	山梨県 →19	奈良県 →29	高知県 →39	
群馬県 →10	長野県 →20	和歌山県→30	福岡県 →40	

〔研究科・専攻コード〕

研 究 科 名	コード	専 攻 名	コード
人間総合科学	8タ	生命システム医学	H
		疾患制御医学	I

4. 改姓年月及び旧姓欄は、婚姻等により出願書類（成績証明書など）と氏名が異なる場合に記入してください。
また、これを証明する戸籍抄本（写可）を添付してください。
5. 本人以外の連絡先欄は、**日本国内に在住**している本人と連絡のとれる者を記入してください。
また、国費外国人留学生は、「**文部科学省**」以外の氏名を記入してください。
6. **志望研究科・専攻名は、募集要項（2頁）で明記している研究科・専攻名**を記入してください。
7. 「志望研究分野及び志望指導教員」欄は、志願者全員が「教員研究分野一覧」に記載されている「研究分野」及び「教員名」を記入してください。
連携大学院方式の指導教員を希望する者は、「志望研究分野及び志望指導教員」欄に志望研究分野名とともに志望指導教員名を記入し、「**連携大学院方式志願者の本学における志望副指導教員名**」欄に志望副指導教員名を記入してください。（昼夜開講制で出願する者は、連携大学院方式の教員を指導教員とすることはできません。） また、入学願書の出願方法②の連携1の番号に○を付してください。
8. 受験特別措置欄は、障害のある者で、受験の際に特別な配慮を許可された者は「要」に○を付してください。
それ以外の者は「不要」に○を付してください。
9. 出願資格審査欄は、募集要項に明記している出願資格認定審査に提出する者は「要」に○を付してください。
それ以外の者は「不要」に○を付してください。
10. 出願資格欄は、該当する出願資格に応じて修了（卒業）した学校名等を記入してください。
11. 入学願書提出後、連絡先が変更になった場合には、直ちに申し出てください。